

あらゆる学習指導に適用できる石井方式

動物園に遠足に行った、その次の日の“絵を描く”時間です。黒板には、「遠足」次に「動物園」と書かれています。

「いろんな動物がいましたね。何がいちばんおもしろかった。」

「僕、象さん。」

「そう、象さんね。」

先生は、そう答えながら、「動物園」の次に「象」と書きました。

「象さんのどんなところがおもしろかった。」

「長い鼻で、食べ物をつかんで食べてた。」

「そう、長い鼻でね。」

そう言いながら、続いて「長い鼻」と書きました。こうして、先生は、きのうの遠足の経験を、子供たちに尋ねては、それを思い出させ、そのうち、絵になりそうなものを、漢字で書きつけていったのです。こうして黒板には、「猿」「白熊」など、いろいろの動物の名前が書き並べられました。

こうした話し合いの後に、絵を描き始めたのです。子供たちは、初めて見る漢字でも、この話し合いの中で、ほとんど覚えてしまいます。

関心をもって見るものは、子供たちには覚えずにいられないのです。

しかも、覚えてしまった漢字は、逆に、きのうの経験を呼び起こす“信号”になり、これが子供たちの描く。遠足”の絵を豊かな、生き生きとしたものに導くのです。

この指導をなさった先生は、どなたもおっしゃっています。「漢字で指導するようになって、子供たちの描く内容が豊かになりました。今まで子供たちがなかなか書けないでいる時、呼び水のつもりで、黒板に私が絵を描いて見せると、子供たちはただその模倣をしたものですが、“漢字の呼び水”は決して模倣にならず(模倣しようとしても、しようがありません)、それぞれに個性ある絵を描かせてくれます」と。

“漢字で歌唱指導”を行なった先生方は、次のようにおっしゃっています。

「歌詞が何番もある歌は、一番、二番くらいは、歌詞をメロディーによく合わせて歌えるのですが、三番、四番となると、歌詞を暗記していないものですから、かなで書かれてある歌詞を見ながら歌うのです。

すると、どうしても、歌詞がメロディーからはみ出てしまうのです。曲が終わったのに、歌詞のほうが残っているのです。

ところが、歌詞を漢字で書いて見せると、曲に歌詞がちゃんと
るのです。かなの場合は、練習しても練習しても、なかなかうまくい
かないのに、漢字で書き表わしますと、練習しなくてもぴたっとうまくい
くのです。

結局、かな書きの歌詞は、読み取れないのです。拾い読みしてい
るので、曲に追いつかないのです。

漢字で歌詞を書いて歌わせるようになって、歌唱指導の能率がと
てもよくなりました。」

“折り紙”などの工作指導の場合にも、漢字を利用できます。図で
説明する場合にも、書き入れる用語を、「折る」「切る」などと漢字で書
いたほうが、一目でぱっとわかるので効果的です。

組の名前、幼児たちの名前、皆、漢字で書いてください。下駄箱な
ど、かな書きされたものは、皆同じように見えて、先生が捜し出すのに
も骨が折れます。漢字で書いておいたら、すぐ見つけられます。

幼児も、自分の名前などすぐ覚えて、たくさんの友だちの中から、
容易に自分の名前を捜し出すことができます。また、友だちの名前も
隣から順々に覚えていき、こんなところから意外に漢字をたくさん覚

えるものです。

“生活指導”の面で、漢字の効果が期待できるところは、少なくあり
ません。ただ、口から耳に伝えるだけでは、幼児にはなかなか理解で
きませんが、耳に訴えるのと同時に、目にも訴えて、幼児の“視聴”両
器官を動員させたほうが、印象に強く残るのは当然です。

“漢字で指導”することの効果は、実に明瞭です。

「左側通行」「静かに」「手を洗いましょう」……掲示は必ず漢字で書
くことです。かなでは、皆同じように見えて、実際の用をなしません。
漢字は、初めて見た時には読めませんが、教えたらずぐ覚え、覚えた
らずぐ読めて、意味がすぐわかります。

名神高速道路が完成した時、標示の文字にローマ字を使ったとこ
ろ、読み取るのに十数秒もかかることがわかり、高速道路には使えな
いことがわかりました。

かなだと、数秒で読めるが、これでも秒速20メートルの自動車の中
からは読めません。これが漢字ですと、数分の一秒で読める。そこで、
高速道路で用いる文字は漢字にしようということに決まったそうです。

漢字は、かなの十分の一の時間で読み取れます。これが、漢字の
長所です。掲示用には最適の文字です。